

## <概要>

原子力発電の第2番目の敦賀発電所（BWR型）に4月設置許可がおりる。また東海発電所は9月に営業運転に入った。12月には、関西電力の美浜発電所1号炉及び東京電力の福島第一1号炉の設置許可がおりた。6月に原子力委員会は、動力炉開発のために臨時推進本部を設け、高速増殖炉及び新型転換炉の開発をスタートさせる。米国の核燃料民有化を受けて、わが国でも民有化ができるように原子力委員会は9月に日米原子力協力協定の改訂を決めた。三菱、日立、東芝などは、燃料製造プラントの建設の準備を進める。海外では、フランスでラ・アーグ燃料再処理工場が6月に操業開始、またピエールラットにウラン濃縮工場が完成した。8月には、シノン原子力発電所 EDF-3（48万kw）が送電を開始した。一方、カナダのダグラスポイント原子力発電所（天然ウラン重水減速型、21万kw）も11月に臨界になる。

## <更新年月>

1998年03月 （本データは原則として更新対象外とします。）

## <本文>

### 1. 内外の原子力関係の出来事

年	月日	国内	国外
1966年 (昭和41年)	1月		ソ連ノボボロネジ原子力発電所1号炉（PWR）、予定出力（21万kW）を上回る24万kWに成功
	1/11	原産開発計画委員会、「電力需要と原子力発電の長期見通し」をまとめる。1985年までの原子力発電開発は4276万kW、今世紀末までに1億6445万kW	
	1/28	地質調査所、岐阜県東濃地区のウラン鉱を約300万トンと推定	
	1/29	原子力船事業団、米B&W社に第1船用動力炉の予備設計と見積りを依頼	
	2/2		米AEC、濃縮ウランの供給拡大を声明

	2/9	原燃 <b>プルトニウム</b> 燃料開発室、プルトニウム酸化物ペレット製造に成功	英、ドーンレイ高速増殖原型炉（25万kW）の建設を決定  米エジソン電気協会、プルトニウムの軽水炉利用でGE、WH両社に研究委託
	2/14	佐藤首相、参議院決算委で、原子力空母の寄港は安全を確認すれば認めると答弁	
	3/1		仏シノン原子力発電所EDF-3臨界（天然ウラン黒鉛減速型、48万kW）
	3/3		米ピーチボトム原子力発電所臨界（4万kW）
	3/22	原研（現日本原子力研究開発機構）JR R-4、2500kW定格出力を達成	
	3/29	原子力委、動力炉開発懇談会に動力炉開発方針提示し了承される	
	4/22	原子力委 <b>原子炉</b> 安全審査会、原電敦賀発電所（日本第1号BWR発電炉、32万2000kW）設置許可	
	4/25		ENEAドラゴン計画の高温ガス冷却炉、設計熱出力2万kWに到達
	4/27	関西電力、美浜発電所1号炉に米WH社の30万kW級2ループPWR採用を決定、日本第1号PWR発電炉	
	5/3		東独初の原子力発電所送電開始（PWR、7万kW）
	5/11	東京電力、福島発電所1号炉に米GE社のBWR採用を決定	
	5/13	原研JR R-2、わが国で初めて試作された板状燃料5体（90%濃縮ウラン）	

		装荷	
	5/14	原電敦賀発電炉、炉本体は米G E 社と契約、格納容器・圧力容器は国産	
	5/24	電力中研、米A P D A（フェルミ炉照射孔借用照射）及び米エジソン電気協会（プルトニウム燃料開発）との協力計画の契約締結	
	6/1	東京電力、福島原子力発電所設置の許可申請。12/1許可	
	6/2	原子力委、動力炉開発臨時推進本部設置を決定。また下部組織として高速増殖炉、新型転換炉2つのグループを設置	
	6/13	関西電力、美浜原子力発電所設置の許可申請。12/1許可	
	6/17		米のT V A、110万kW 2基の発電炉の採用を決定
	6/21	三菱原子力工業、茨城県東海村に「原子燃料製作所」建設の許可申請	
	6/22	日立・東芝・米G E 合併の日本ニュクリア・フュエル社の設立で調印	
	6/29	電力中研日本フェルミ炉委、米エジソン電気協会との高速増殖炉開発研究計画提携内容を承認、米A P D Aへ技術者派遣を決定。9/29日本フェルミ炉委A P D A派遣研究員第1陣出発	
		日本エネルギー経済研究所（理事長有澤廣巳）発足	
	6/30		仏のラ・アーグ燃料再処理工場操業開始
	6月		仏のピエールラット・ウラン濃縮工場の高濃縮工程完成

	6月		米GE社のプルトニウム燃料高速増殖実験炉SEFOR臨界
	7/7		ユーロケミック核燃料再処理工場開所
	7/14	原子力委、原子力第1船は国内技術を主体とする原子炉を搭載すると発表	
	7/25		米AEC、濃縮奨励で新政策発表
	8/1	原子力局、原子炉開発課及び技術振興課を新設	
	8/5		米のエンリコ・フェルミ原子力発電所、初発電に成功。10/5出力上昇試験中、燃料溶融事故を起し、運転停止
	8/9	三菱金属工業、核燃料物質加工事業申請	
	8/14		西独グンドレミンゲンのKRB原子力発電所（BWR、25万kW）臨界
	8/26		西独ユーリッヒ、AVR原子力発電所の濃縮ウラン高温ガス冷却ペブルベッド炉臨界（1万5000kW）
	8/27	京大原子炉、住友電工の成型加工による燃料で臨界	
	8月		仏シノンのEDF-3送電開始
	9/1	原電東海発電所、営業運転を開始（12万5000kW）	
	9/7		英AEA、南ア連邦原子力庁と燃料製造で契約調印

	9/8	原子力委、長期計画改訂の基本方針及び同専門部会の設置を決定。9/29設置	スイスのバーゼルで世界初の原子力見本市開催
	9/12	原子力委、特殊核物質民有化の方針で日米原子力協定の改訂を決定	
	10/3	原研 J R R-2、初の国産中空燃料棒1体を装荷、照射試験開始	
	10/18		仏・ベルギー共同計画のチューズ S E N A 原子力発電所臨界（フラマトム製 P W R、26万6000kW）
	11/15	住友原子力工業、東海研究所開所	<p>仏・西独、高中性子束原子炉の共同建設計画協定に調印（仏グルノーブルに建設。建設費50%ずつ負担）</p> <p>カナダのダグラスポイント原子力発電所臨界（天然ウラン重水減速発電炉 C A N D U-P H W 原型、21万8000kW）</p>
	12/1	東京電力福島第一1号炉及び関西電力美浜1号炉の設置許可	
	12/9		伊原子力委と国防省、原子力船建造で合意成立（排水量1万8000トン、原子炉は熱出力8万kWのPWR、兵員補給艦）
	12/13	原子力委動力炉開発推進本部、高速増殖炉実験炉の研究開発・設計建設計画について高速炉分科会に諮問、同時に新型転換炉原型炉の概念設計の原子力5グループへの発注分を決定	
	12月		ユーラトム委員会、英AEAとドーンレイ高速炉で燃料及び材料の照射実験を行うための協定に調印
	12月		米ソで、104番目の元素ラザフォージウム（R f）の生成に成功

## 2. 社会一般の出来事

年	月日	国内	国外
---	----	----	----

1966年 (昭和41年)			
2/3			ソ連月ロケット、ルナ9号月面軟着陸に成功
3/16			米の有人人工衛星、35分間のドッキングに成功
4/5	東京大学に大型計算機センター設置 (共同利用)		
5/16			中国で文化大革命はじまる
6/2			米サーベイヤー1号、月面軟着陸に成功
7/4	閣議、新東京国際空港の建設地を千葉県成田市三里塚に決定。7/5関係政令公布		
7/20			英首相ウィルソン、ポンド危機打開のための緊縮政策（全税金10%上昇など）を発表
8/4	厚生省（現厚生労働省）公害審議会、中間報告を提出（公害に関する政府と企業の無過失責任の原則を強調）。10/7第1次答申（限度を越えれば企業側に賠償責任）		
8/10	関西電力で夏季最大電力が冬季を上回る（全国ではじめて）		
8/22	第11回太平洋学術会議（～9/8）1926年以来40年ぶりに東京で開催（参加国60、参加者5906人、発表論文約2000）		
8/26	閣議、石炭業の長期安定策決定（7/25の石炭鉱業審議会最終答申に基づくもの）		
9/7	石川島播磨横浜工場でタンカー出光丸（20万9000トン）進水		
10/8	岩手県松川で地熱発電所完成、送電開		

		始（9500kw）	
	10/31	中教審、「後期中等教育の拡充整備について」最終答申（技能学科・家政高校の設置など多様化を強調）	

#### <関連タイトル>

[沸騰水型原子炉（BWR）（02-01-01-01）](#)  
[加圧水型原子炉（PWR）（02-01-01-02）](#)  
[原子力発電技術の開発経緯（PWR）（02-04-01-01）](#)  
[重水減速沸騰軽水冷却型原子炉（03-02-02-01）](#)  
[日本における高速増殖炉開発の経緯（03-01-06-01）](#)  
[新型転換炉開発の経緯（03-02-06-01）](#)

#### <参考文献>

- （1）森 一久編：原子力年表（1934-1985）、日本原子力産業会議（1986年11月18日）、丸ノ内出版（発売）、中央公論事業出版（制作）
- （2）原子力委員会（企画）、原子力開発三十年史編集委員会編：原子力開発三十年史、日本原子力文化振興財団（昭和61年10月26日）
- （3）森 一久編：原子力は、いま（上巻）-日本の原子力平和利用30年-、日本原子力産業会議（1986年11月18日）、丸ノ内出版（発売）、中央公論事業出版（制作）
- （4）科学技術庁原子力局（監修）：原子力ポケットブック・1996年版、日本原子力産業会議（1996年4月26日）